

# 植物観察記録

No.1

- ・日時 2024年(令和6年)4月12日(金)そら組『野草料理』(新人歓迎会)  
午前10時45分~12時
- ・講師 そら組専任講師 岡田 弘先生
- ・参加者 新入生4名を含む計8名
- ・場所 淀川大塚河川公園



## ・観察した草本(15種)

- シロツメクサ ……… 名前の由来は、オランダから陶器を運ぶための梱包材として詰められたことから。葉は、人が踏みつけるなどの刺激を受けると四つ葉になりやすい。
- ギシギシ ……… 春の若芽は粘り気があり食べられる野草。別名 オカジュンサイとも言う。茎をこすり合わせるとギシギシという音がするので名付けられたのではとされている。葉柄がある。スイバは葉柄がなく、茎を葉がまく。
- オオイヌノフグリ… 花は1日で終わる。2本のオシベ真ん中にメシベ。虫媒花だが、虫による受粉がでなくても左右のオシベが内側に曲がりメシベに触れて自家受粉する。種の形が犬のフグリに似ているのが名前の由来。別名は 星の瞳。
- ノヂシャ ……… 葉にアクやクセがほとんどなく、ヨーロッパではサラダとして、栽培されている。
- ハコベ…………… 春の七草。小さな白い花は5弁だが深く2裂しているのので、10弁に見える。茎は柔らかく自立できない。
- ミミナグサ……… ハコベに似ているが葉や茎に短い毛が生えている。茎は暗紫色で固い。葉がネズミの耳に似ているので名づけられた。在来種。
- ムラサキサギゴケ… コケのように地を這いながら伸びる。名前の由来は花の形がサギに似ているから。白い花はサギゴケ。
- トゲミノキツネノボタン…種に刺がある。毒素は全草にあり、敏感肌の方は皮膚炎を起こす。
- ニセカラクサケマン… カラクサケマンに似ていることからついた名前。カラクサケマンは、花がたくさんつり下がった様子が、仏壇の飾り(けまん)に似ていることから言われた。
- オオキンケイギク…………… コスモスを大きくしたような、黄色い可憐な花だが、繁殖力が強く在来植物の生息場所を奪う特定外来生物に指定されている。
- タンポポ…………… 茎の両端を細かく裂くと、反り返り鼓のような形になり、鼓をたたく(タンタン、ポンポン)という音からという由来と、種の冠毛が丸く集まっている様子が綿を丸めて布で包んだ「たんぽ」に似ているからなど諸説あり。セイヨウタンポポはカンサイタンポポと違って花の下の総苞が反り返っている。
- カラスノエンドウ……… 羽状複葉。熟した実がカラスのように真っ黒なことから名前が付いた。
- ヒメオドリコソウ… オドリコソウは花を横から見ると、笠をかぶった踊り子に見えることからと呼ばれており、それより小さな花をつけるのでヒメオドリコソウと名付けられる。
- キュウリグサ…………… 葉をもむとキュウリのようなにおいがすることが名前の由来。
- ナズナ…………… 別名ペンペン草。撫でたいほど小さく可愛い花(菜)。「撫で菜」からナズナ。ペンペン草は種が三味線のバチに似ており三味線の擬音から名づけられた。



シロツメクサ



ギシギシ



オオイヌノフグリ



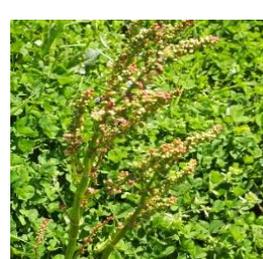
ノヂシャ



ムラサキサギコケ



トゲミノキツネノボタン



スイバ



ニセカラクサケマン



オオキンケイギク



タンポポ



カラスノエンドウ



ヒメオドリコソウ



ミミナグサ



キュウリグサ



ナズナ

【写真提供】

中村亀雄氏

【観察記録】

木村るみ子

## 料理に使用した野草

ヤブガラシ・タンポポ・ヤブカンゾウ・カラムシ・ノヂシャ・セイヨウカラシナ・ナヨクサフジ・ヨモギ・ハコベ・ノビル・ツクシ

## <所感>

名前を知ること、お互いを知りあえる。人も草木もそこからが始まりです。岡田先生のお話は、名前の由来から、生態まで詳しくご説明くださり、自分たちの知識が少し広がる楽しさを感じたひと時でした。初めて頂いた野草も多く、普段できない体験をしました。とても有意義な新しい出会いを準備して下さった皆さんに感謝致します。